



## 第4回目「パネルディスカッションと会場を交えた意見交換会」

日 時：11月23日(火・祝) 10:00-12:00

場 所：西部コミセン1Fロビー

参加人数：49名

**はじめに** 地域フォーラム「独歩の森のナラ枯れを考える」は全4回シリーズの最終回。第1～3回は、現地でのナラ枯れの状況を見て、講演会でナラ枯れについて学び、情報交換で疑問点やアイデア出しをしました。第4回は、疑問点についてパネラーに教えていただいたり、独歩の森の未来について話し合いました。



いよいよ最終回  
専門家や市の担当課から  
説明を聞きます。

### ■ 地域フォーラムとは

フォーラムを始めるにあたりコミセンを所管する市の市民活動推進課から「地域フォーラム」について説明していただきました。

【要約】地域課題について、誰もが自由に参加し話し合うことができる場です。この中で、さまざまな団体や個人、地域の交流が深まることで、コミュニティの活性化を目指しています。ここで大事なものは、行政も含め互いに対等の立場で参加し、地域課題解決の端緒を築いていくことです。

### ■ パネルディスカッション

パネラー：武蔵野の森を育てる会（以下、森の会）・吉田智弘先生（東京農工大学）・金本敦志先生（NPO birth）・武蔵野市緑のまち推進課（以下、担当課）（発表順）

森の会からは、武蔵野は昔イネ科の原っぱだったこと、江戸時代に新田開発があり雑木林がたくさん生まれたこと、今では武蔵野市に僅かしかなく、市管理では独歩の森が最大ということが話され、第3回での意見（裏面参照）をまと

めていただきました。吉田先生・金本先生からは第2回の講演（ニュース#2参照）をギュッとまとめておさらいをしていただきました。担当課からは武蔵野市における緑の位置づけ、市内のナラ枯れの状況、今までの対策を話していただきました。トラップでカシノナガキクイムシ（菌を運ぶ虫）を9万匹も捕ったそうです。

### ■ 第3回の疑問点へのパネラーからの回答

Q：ナラ菌への薬剤はあるのか

A：殺菌剤はあるが、多数のナラ類に対しては、技術的・コスト的に使用が難しい。

Q：ナラ枯れは昔からあるのか

A：症状自体は古文書に記載がある。

Q：伐採で生物多様性どうなるか

A：高木林に依存する種は一時的に減少するが、草地や若い二次林など明るい環境を好む生物が増える。

Q：独歩の森は放置すると常緑樹林になるのか

A：林床がササで覆われていると次世代の樹木が育たず、森になりにくい。常緑樹林になるには時間（例えば200年）がかかる。

Q：木の状態によるCO<sub>2</sub>吸収量は

A：葉が多数あり、成長が良いと吸収量は多い、またナラ枯れ被害の有無では無い方が吸収量は多い。

Q：伐採にかかる費用は？

A：東京都基準で一般的には43万円/本、独歩の森の太さだと87万円かかる。



パネラーと参加者で意見交換。いろいろな立場の人が持つてくる情報とアイデアで、ナラ枯れをどうするか、独歩の森をどうするか話し合います。  
意見交換の時間が短い！という意見も。

裏面につづく

① ニュースはHPよりダウンロードできます

西部コミュニティ協議会



武蔵野市境5-6-20

seibu-c@bz04.plala.or.jp

https://seibu-c.sakura.ne.jp/





## 協議会・委員会の設置

協議会・委員会等をつくり、意見集約、定期会合、更新計画の立案などを進める

## 市民と行政の協働

・行政に提案するため地域住民の会をつくる  
・2007年の提言書をもとに市民の提案に沿って実現を促す



## 将来ビジョン

・地域の緑地として未来に向けて残す  
・小学生がひとりでも歩ける明るい雑木林に  
・市民・行政で20年後の生き生きした林を考える（20年計画をつくる）



## 独歩の森の意味

・若い雑木林で維持することの意味  
✓教育（萌芽更新で自然と共生する環境を学ぶ）  
✓歴史・文化（伝承する）  
✓コスト（大木管理より低廉）  
・独歩の森は都市計画緑地であり、普通の公園ではない。武蔵野の雑木林を保全する目的を確認して市民と市の協力により具体的計画を作成するのが基本。



## ボランティアの確保

雑木林の保全ボランティアを増やす（伐採、日常手入れ、イベント等の手伝いを含む）

## 若い世代への継承

中高生の関心を喚起する（雑木林の更新・維持は20年以上の長期的取組だから）



## 市民・近隣への情報提供

・独歩の森の危機を知らせる  
・ナラ枯れの理由を知らせて理解を得る

## 第3回の意見のまとめ



## 雑木林の更新

行政と市民の連携で循環型雑木林の実現  
・1000㎡の小区画で段階的に更新  
・実生による若返り  
・定期的な伐採で循環させる  
・伐採祭り、各種イベントで市民参加

## ナラ枯れ木・大径木の伐採

・カシナガにアタックされた木は即時伐採（トラップ等対策はB/C悪いので不要）  
・大径木は伐採して実生等で更新  
・萌芽更新の可能性にかけて試しに伐採



## 雑木林の活用

・子どもの環境教育（自然体験、デイキャンプ、福祉・教育施設で薪ストーブ）  
・楽しみ・いこい（ピザパーティ、シイタケ栽培、ハンモックで昼寝、市民交流）  
・市外へのアピール（写真、ライブカメラ中継）



## 生き物の保護

・伐採工事は3～7月を避ける（渡り鳥のため）  
・伐採した木は自然の中で循環させる（虫の餌など）  
・鳥のすみ家、食料からみた樹種を検討

## ■ 意見交換

ほぼ、第3回の意見（上記）にまとめられていますが、第4回目でも新たな意見がありました。

- ・環境の多様性を考え、市全体の公園・緑地における独歩の森の特色を活かすべき。
- ・独歩の森以外から/への影響・被害も考える。
- ・ナラ枯れのひどい箇所は資金投入して若返りし、他の箇所は将来計画を皆で検討する。

### <市との意見交換より>

- ・トラップの効果は？→枯れる木を減らす（遅らせる）ことができる。
- ・一定範囲を皆伐しては？→景観変化へ市民意識や予算確保などをふまえて考える。

## ■ おわりに

連続フォーラムの中で、独歩の森には短期・中期・長期の将来像と管理があることが分かり、将来像や計画を協議会でつくるのがいいなど具体的な提案がありました。短期的には市の対策がある程度効果をあげています。今後は中長期的なところで、市民参加で計画※を作っていくことが期待されるのではないのでしょうか。

20年後の独歩の森を夢見て、地域フォーラムが終了しました。



※2007年には境山野緑地検討委員会「境山野緑地の保全と活用について（提言）」があります。「武蔵野市都市計画マスタープラン2021」では、「（境山野緑地は）まとまった雑木林を将来に引き継ぐ」としています。